

# 岩国往来 散策マップ

昔を偲びながら、歴史の道岩国往来を歩いてみませんか。史跡や素晴らしい自然、地元の人情との出会いが待っています。



2008年3月  
夢街道ルネサンス地区に認定

編集 / 岩国往来まちづくり協議会  
岩国往来ホームページ  
http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~guide/iwakunroad/index.htm

## 岩国往来とは



岩国往来とは、岩国市本郷町と、美和町阿賀(あか)、生見、波前(しぶま)、日宛(ひなた)、長谷、旧岩国市多田、錦見及び今津を結ぶ約30kmの街道です。1600年、関ヶ原の戦い後、初代岩国藩主吉川広家の家臣・家臣一行が、出雲国(島根県) 富田城から石州路を通り、山代の本郷を経て、松尾峠を越えて岩国に来ました。また1630年代には、萩藩主や役人が岩国藩を視察するために整備した歴史的な道です。

岩国往来は江戸時代から明治時代にかけて、和紙の原料である楮(こうぞ)や三椏(みつまた)などを運んだり、生活道として使われてきました。その後現在のように車道が整備され、不便な岩国往来を利用する人がいなくなりました。そのため、倒木や雑草が生い茂り、現在ではすっかり人々から忘れ去られてしまいました。

2005年より岩国往来を復元し、過疎化した街道沿いのまちを活性化しようとするボランティア団体が発立ちました。倒木を整備し、雑草を刈り、ゴミを拾い、また地図を片手に、岩国往来を歩けるように機織を立てました。昔を偲びながら、史跡を訪ね、自然や地元の人と触れ合いながら歩いてみませんか!

2008年3月、夢街道ルネサンス地区に認定され、錦帯橋畔に記念碑が建立されました。

### 岩国往来の名称の由来

本郷と今津を結ぶ道は、石州街道とか岩国往還とか地域呼び名が異なりますが、防長風土注進案や2005年の山口県教育委員会が編纂した「石州街道調査報告書」によれば、「岩国往来」と呼んでいます。そこで本郷～今津間の街道を「岩国往来」と呼ぶことにしました。尚、本郷以北は「奥往来」と呼んでいました。

### 勘場(代官所)



本郷代官所跡 (入口に「百一万一心」の石碑があります)

萩藩は、領内の村々を支配するため、20～30の村を1区域として宰判ごとに代官を置き、宰判内の民政や徴税の任務にあたらせました。宰判の役場を勘場又は代官所といえます。山代の宰判の勘場は、1612年に本郷(現本郷小学校敷地)に置かれ、約270年続きました。

### 本陣

山陽道は、大和朝廷成立の初期に開かれ、大化の改新(645)により、都(奈良)から太宰府までの官道として整備され、七道中唯一の大路でした。この道は、安芸国遠管(大竹市小方)の駅家駅を過ぎ、小瀬川を渡って周防国尾瀬(岩国市小瀬)から山道を超えて、石国駅家(岩国市関戸付近)から野口(岩国市玖珂野口)に至りました。

関戸に置かれた石国駅家は、20頭の駅馬を常備し、駅舎の施設が整っていたと思われます。近世には、大坂から下関を経て九州小倉を結ぶ幹線で、西国大名の参勤交代等により、往来も盛んで国内陸路の主要道として利用されました。

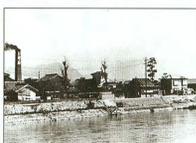
この関戸宿には、参勤交代のための本陣や脇本陣があり、一般旅客のために旅館や茶店などの施設も設けられていた。庄屋の村尾家が勤めていた本陣は、今は土塀の一部を残すのみです。

### 渡り場

江戸時代、岩国近郊の橋は錦帯橋しかありませんでした。小瀬川と錦川には、対岸に渡る舟渡しの設備が沢山整えられていました。多田付近では、多田～御庄間と多田～千石原間に渡り場がありました。寛文の「古村記」によれば、千石原の渡りは、常水で舟渡しのところ川幅18間、深さ4尺ばかり、から渡りところ川幅23間に深さ2尺とあります。

渡り場は、各地に橋が出来るとともに次第に姿を消して行きました。多田～千石原の渡り場は、1954年に復活し、存続していましたが、いつかの時代になくなってしまいました。是非渡り場を存続させたいものです。

### 雁木(がなぎ)

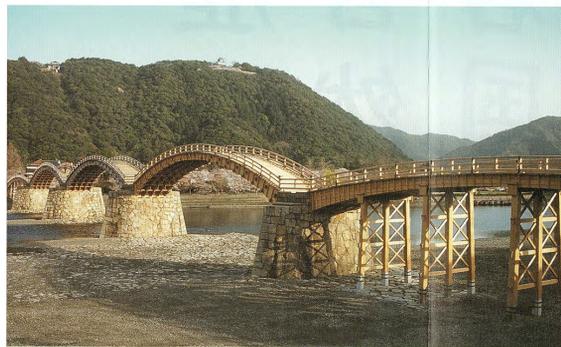


今津の港 雁木の風景

雁木とは、船着場の階段のある棧橋のことをいいます。江戸時代、岩国藩主吉川氏は、今津から船で江戸に行きましたが、この雁木を利用して船に乗り込んだと思われます。雁木は今津川河川工事でコンクリートになりましたが、今でも当時の趣が残っています。

## 関戸～錦帯橋～城下町～今津コース

関戸、錦帯橋周辺、城下町、今津の歴史を訪ねて!



日本三名橋の筆頭 錦帯橋 ⑧

錦帯橋は山口県最大の錦川(川幅約200m)に架かる木造の5連の太鼓橋で、日本三名橋の一つで、国の名勝に指定されている。

1673年、第三代岩国藩主吉川広嘉によって創建され、その後、流失と再建を経て、2004年に半世紀ぶりとなる平成の架け替え工事が行われた。

### せきど 関戸

関戸は錦川の錦帯橋の約2km上流に位置し、奈良時代より旧山陽道の駅家として栄えた。江戸時代には、本陣、脇本陣、旅籠、御茶屋があり、交通の要所でした。現在は本陣の土塀が残っている。



関戸本陣跡 ⑦

吉田松陰東遊記念碑 ⑦

参勤交代のため、関戸には本陣があったが、今は土塀が残っていない。

吉田松陰が22歳の時、関戸を越えた折に詠んだ詩が刻まれている。



- 岩国往来
- - - 近道
- 山代街道
- 旧山陽道
- ①～⑨ 標識番号
- 目印
- ♿ トイレ
- 縮尺：1/25,000

# 風情あふれる城下町 人と歴史の鼓動を探して

## よこやま 横山

錦帯橋の対岸城山の麓に位置し、鎌倉時代から横山と呼ばれている。1602年初代岩国藩主吉川広家が居館並びに武家屋敷を構築し、明治時代初めまで吉川氏が治めていた。寺・神社、岩国城など多数の史跡が残るほか、国の天然記念物「岩国のシロヘビ」も観覧出来る。



吉香神社 岩国藩主吉川家歴代の神霊を祀る神社。国指定重要文化財。



吉川家墓所 旧岩国藩主吉川家代々の墓所で山口県指定史跡。みみずくの手足鉢がある。



吉香公園 旧岩国藩主の居館跡や旧岩国高校跡地を含め、1973年に整備して公園にした。



香川家長屋門 1693年に建築された岩国藩家老香川家の長屋門で、岩国で最も古い建物。山口県指定文化財。



旧目加田家住宅 18世紀中頃の中級武家屋敷で国の重要文化財。両袖瓦はこの地域だけに見られる。



白蛇観覧所 国の天然記念物に指定。白蛇観覧所で見られる。金運招福の縁起物ともいわれている。



## モデルコース

岩国往来には、豊照寺峠、破魔射峠、杉ヶ峠、目舞坂峠、松尾峠があります。

モデルコース例	距離	所要時間
本郷～美和(5つの峠)～錦帯橋～今津	約30km	約11hr
本郷～美和(5つの峠)～錦帯橋	約24km	約10hr
本郷～美和(3つの峠)～美和町波前(横田)	約12km	約6hr
美和町下畑～美和(4つの峠)～多田～錦帯橋	約16km	約8hr
美和町波前(横田)～美和(2つの峠)～多田～錦帯橋	約12km	約6hr

本郷～美和までのアクセス ※列車、バスと併用がおすすめです



○ 旅館 (本郷町、美和町)必ず予約して下さい。  
○ 電車の屋旅館 岩国市美和町波前641-1 ☎0827-96-0012

参考文献  
○石州街道調査報告書  
○防長風土注進案  
○岩国藩全国  
○正保国絵図  
○岩国市史  
○防長地下上申  
○御国御行程記  
○美和町史  
○本郷村史  
○地下上申絵図

発行  
「岩国往来-散策マップ実行委員会」  
協力  
(社)中国建設弘済会  
岩国市産業振興部観光振興課  
岩国市教育委員会文化財保護課  
制作  
岩国往来まちづくり協議会  
お問合せ先  
岩国往来まちづくり協議会(☎0827-43-0220)  
岩国市観光振興課(☎0827-29-5116) (fax 0827-41-2750)

初版 2007年9月  
第2版 2010年6月

## 一里塚(一里山)とは



長谷一里塚(美和町長谷)



目舞坂一里塚(美和町上佐坂)



志谷一里塚(美和町志谷)

## 街道松



街道松(美和町阿賀)

## 駕籠立場

江戸時代、参勤交代やお国廻りなどの時、殿様が駕籠に乗って移動しました。駕籠立場は峠の頂上や見晴らしの良いところで、殿様が駕籠から降りて、休憩していました。岩国往来には、松尾峠の頂上、生見志谷の破魔射峠の登り口、美和町阿賀の豊照寺の登り口に駕籠立場があったとの記録が残っているが、3箇所とも駕籠立場は残っていませんでした。そこでボランティアにより、2008年3月志谷駕籠立場、2009年3月阿賀駕籠立場が復元されました。是非駕籠で休憩し、昔を偲んでください。

## 今津

錦川河口に位置する。岩国藩城下町の一環として造られた。藩主が江戸へ船を利用するための御茶屋があり、また周囲には武家地や港湾施設のほか、札場があった。岩国往来の起点である。



白崎八幡宮 1614年岩国藩主吉川広家より社殿が現在地に再興された。

萩蔵跡 1627年創設された萩藩の蔵で、山代からの山代紙などを貯蔵し、大阪などに運んだ。



今津札場跡 ⑨ 1642年に札場が寺橋付近に立てられた。岩国往来の起点。



今津御茶屋跡 ⑨ 岩国藩主が海路で江戸に行く時の休憩所。現在は酒造会社の敷地。



